

歴

史民俗資料館だより

美濃郡代笠松陣屋

・笠松県庁跡



資料館には笠松陣屋の模型が展示されています

天下分け目の関ヶ原の戦いを
経た美濃の所領は、石高十萬石
以下の譜代・外様大名と、七十
余りの旗本、それに幕府直轄領
とに細かく分轄されることにな
りました。このような支配の中
にあつて、幕府直轄領の郡代
(代官)の役所(陣屋)が笠松に置
かれていました。

寛永八年(一六三一年)国奉行
となつた岡田善政は、大野郡揖
斐陣屋(現揖斐川町)に居り、次
いで承応二年(一六五三年)か
らは可児郡徳野村(現可児市)
に陣屋を構えましたが、慶安三
年(一六五〇年)九月の「枝広の
洪水」の復旧工事を行うために、
笠町(当時の笠松の呼称)に休
息所を設け、工事の指揮・監督
にあたりました。休息所は西南
濃の治水工事を進めるための臨
時の施設でしたが、この時が笠
松の地に幕府の機関を置いた最
初でした。

岡田善政の跡役を命ぜられた
郡代名取半左衛門長知は寛文二
年(一六六二年)「笠町」を「笠
松村」と改め、徳野陣屋(現可
児市)が美濃国の幕府直轄領を
支配するには不便であるといふ

理由で笠松に設けた休息所を陣
屋と定め、徳野陣屋の門・玄
関・書院などを移築し、ここに
陣屋を設置しました。屋敷の面
積は一町九反(約一万九千平方
メートル)程ありました。笠松
陣屋は、美濃の治水政策を司る
役所として、あるいは間接的に
私領に目を光らせる幕府の出張
所としての重要な役割を持つて
いました。

笠松陣屋は慶応四年(一八六
八年)明治新政府に接収される
まで続きました。廃藩置県によ
り、同年四月に笠松県が誕生し、
およそ二百年続いた笠松陣屋は
笠松県庁へと変わりました。
明治四年(一八七一年)岐阜県
が誕生して、明治六年(一八七
三年)に県庁が岐阜市へ移るま
では、笠松は岐阜県の政治・経
済の中心地だったので。
(「ふるさとかさまつ」より)

笠松陣屋・笠松県庁跡は笠松
の大切な史跡で、今では小公園
になっています。
資料館では、笠松陣屋絵図や
第二十四代美濃郡代の岩田鐵三
郎から出された年貢割付状など
を展示し、紹介しています。

笠松町文化協会
第6回

かしまつ文芸祭の

ご案内

開催日 十月二十七日(日)
時間 午後一時～三時三十分
会場 中央公民館

【作品の募集】

- ・募集作品 短歌・俳句・川柳
- ・題 自由
- ・募集点数 各一首・二句
- ・資格 町内外のかた
(小・中学生を
含む)
- ・募集期間 九月一日(日)～
三十日(月)
- ・提出先 中央公民館
- ・応募料 無料
- ・作品集 「街道」一冊
五百円(送料別
二百円)
- 問合せ先
笠松町文化協会事務局
(中央公民館内)